

# 防災センターとしての「あいぽーと」の役割 ①

## 【岩手・宮城内陸地震】

平成20年(2008年)6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震は、岩手県内陸南部、宮城県内陸北部を中心に、大きな被害をもたらしました。震源は岩手県内陸南部でマグニチュード7.2、最大震度6強を観測しました。

震源が山間部だったことなどから、過去の大地震(阪神・淡路大震災や新潟県中越地震)と比べて建物被害が極端に少ないのに対し、多数の土砂災害が発生しました。

あいぽーとには国土交通省の現地対策本部が設置され、TEC-FORCEの派遣及び災害復旧の拠点などとして活用されました。

### ●地震の概要

【発生日時】 平成23年(2008年)6月14日 8時43分頃

【場所】 岩手県内陸南部の深さ8km(北緯39度01.7分、東経140度52.8分)

【規模】 マグニチュード7.2

【震度】 6強(岩手県奥州市、宮城県栗原市)

6弱(宮城県大崎市)

5強(岩手県北上市、一関市、金ヶ崎町、平泉町、秋田県湯沢市、東成瀬村

宮城県仙台市、名取市、登米市、利府町、加美町、涌谷町、美里町)

岩手県・宮城県内の一般被害(平成21年1月13日現在:消防庁)

	人的被害(人)				住家被害(棟)			火災
	死	行方	重	軽傷	全	半	一部損	
岩手県	2	0	9	28	2	4	763	2
宮城県	10	8	56	334	28	138	1,607	1
合計	12	8	65	362	30	142	2,370	3

### ●地震対応時のあいぽーとの状況



現地対策本部 全体打合せの状況(あいぽーと内学習スペース)



災害対策車両(照明車)



臨時ヘリポートの状況

## 防災センターとしての「あいぽーと」の役割 ②

### 【東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)】

平成23年(2011年)3月11日14時46分、マグニチュード9.0の地震が発生しました。宮城県栗原市で震度7、岩手県内においても沿岸を含む8つの市町で6弱を観測しています。また直後に発生した巨大津波は、最大10m以上に達し、多くの人命や資産を奪うなど未曾有の被害をもたらしました。(東北地方整備局「震災伝承館より」)

あいぽーとは、全国各地から派遣された災害対策車両が、被災地へ向かうための一時拠点などに使用されました。

#### ●災害の概要

【発生日時】	平成23年(2011年)3月11日 14時46分頃
【場 所】	三陸沖(北緯38.1度、東経142.9度)
【規 模】	マグニチュード9.0
【震 度】	岩手県内の観測値 6弱(大船渡市、釜石市、滝沢村(現 滝沢市)、矢巾町、花巻市 一関市、奥州市、藤沢町(現 一関市に合併))
【津 波】	岩手県内の観測値 宮古 最大波3月11日 8.5m以上 大船渡 最大波3月11日 8.0m以上 釜石 最大波3月11日 4.2m以上
【被 害】	岩手県内の被害 ・人的被害 死者4,665人、行方不明者1,385人、負傷者188人 ・住家被害 全壊20,184棟、半壊4,551棟、一部損壊7,306棟、浸水被害2,084棟
【そ の 他】	被災多数 ※災害の規模、被害数は平成23年12月12日の消防庁資料による数値で、暫定値、未確定値が含まれます。

#### ●災害対応時のあいぽーとの状況





# TEC-FORCE

緊急災害対策派遣隊（テックフォース：Technical Emergency Control FORCE）



- ◆ TEC-FORCEは、国土交通省の職員が被災現場に出向き、被災状況調査、災害対応についての技術的助言、災害対策用機械による応急復旧等について支援します。
- ◆ リエゾン（災害対策現地情報連絡員）を通じて、被災した自治体での支援ニーズを把握し、効果的な支援の早期実現へ向けにお役に立つよう動きます。

## ◆ 被災した自治体等への主な支援メニュー



### 被災した自治体が管理する施設を調査します。

TEC-FORCE隊員は、被災の規模に応じて全国から隊員を集結し、河川や砂防、道路などの自治体が管理する施設の被災状況を短期間で調査し、報告することができます。



### 被災現場の進入ルートを確認します。

通行可能なルートを確認するため、道路情報の提供や、国の管理する道路以外でもガレキなどを撤去し、道路啓開（緊急通行車両が移動できるルートを切り啓くこと）や応急復旧を支援します。

## 災害対策用機械を派遣します。

国土交通省が保有する災害対策用機械を貸与することができます。災害対策用機械は裏面にも掲載してあります。

### 排水ポンプ車



大雨、洪水、津波などにより生じた滞留水を早期に解消するため、排水ポンプ車で排水することができます。

### 照明車



被災現場での監視、調査、復旧は、24時間昼夜を問わず行われる場合があります。照明車は、夜間にこれらの活動を安全に行うための灯りを提供します。

### 衛星画像伝送



災害対策用ヘリコプターや監視カメラ等の被災現場の映像を、衛星通信車や小型衛星画像伝送装置（Ku-sat）により、被災した自治体にリアルタイムで配信することができます。



### 自治体からの支援ニーズを把握します。

災害が発生又は発生するおそれのある場合には、直ちにリエゾンを派遣し、被災した自治体での情報収集や支援ニーズの把握を積極的に行います。



### 資材を提供します。

国土交通省が保有する災害復旧用資材を提供します。費用負担を伴いますが、災害復旧事業等の対象になるものは、国の負担で贈ることが可能となります。

※ 上記のメニューは代表的なものを示したものです。



## 国土交通省 東北地方整備局 企画部 防災課

〒980-8602 仙台市青葉区本町3丁目3番1号 仙台合同庁舎B棟

TEL：022-225-2171（代表） FAX：022-224-9410 HPアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/>

## ◆国土交通省（東北地方整備局）から提供可能な主な資材類

資材	用途・概要
異形ブロック	根固めブロック など
砕石	道路の補修材 など
大型土のう	土留・仮設材 など
ブルーシート	家屋・施設の養生材 など

※資材の提供は費用負担を伴いますが、災害復旧事業等の対象になるものは、国の負担で賄うことが可能となります。

## ◆国土交通省（東北地方整備局）から貸与可能な主な災害対策用機械

機械・機器	用途・概要	
① 対策本部車	災害現場での現地対策本部として使用	
② 衛星通信車	災害現場での通信網を確保するため使用	
③ 排水ポンプ車	浸水した土地等の排水に使用	
④ 照明車	災害現場等の夜間照明として使用	
⑤ 待機支援車	災害現場での休息等に使用	
⑥ 応急組立橋	早期の交通路確保のための仮橋として使用	
⑦ 遠隔操縦対応型バックホウ	遠隔操作による作業のほか、分解して輸送が可能	
⑧ 小型衛星画像伝送装置（Ku-sat）	通信衛星を利用した動画伝送	

※引き渡し後の運転に係る燃料、運転手などは、原則、要請者で準備していただく必要があります。

## ◆TEC-FORCEの活動事例



▲ 被災状況調査



▲ ドローンを活用した被災状況調査



▲ 防災ヘリによる被災状況調査



▲ 自治体への技術的支援



▲ 排水ポンプ車による排水活動



▲ 避難所への照明車設置